

V 性的マイノリティに関すること

「性的マイノリティ」について理解し、人権問題として考えよう

1 ねらい

日本の社会では同性愛者や性同一性障がいなどの性的マイノリティに対する偏見・差別は根強いものがあり、性的マイノリティを人権問題として認識していない人が多くいる。そういった社会の中で、悩み・苦しみを誰にも言えず、自分の立場を明らかにできないで生活している人もいる。

人権尊重の視点に立って、多様な性の問題について考えるとともに、性的マイノリティの問題について正しい理解や認識を深める。

2 準備物 ワークシート、HP等の資料

3 留意点

- (1) 性的マイノリティについて正しい知識を得るとともに、私たちの周りにも社会的偏見・差別のために、本当の自分を出せない人がいることを理解する。
- (2) 現在の日本の社会では、メディア等で性的マイノリティの人に対して気付かないうちに偏見や差別をあおる風潮があり、それが当事者を傷つけていることに気付く。

4 ワークシート例

- (1) あなたは、性的マイノリティ（同性愛・性同一性障がい等）からどんなことを連想しますか。また、どんなことを知っていますか。

- (2) 性的マイノリティの方は、どんなことで悩んでいるのでしょうか。

- (3) 同性愛者が、日常生活でカミングアウトすることに抵抗を感じています。それはなぜでしょうか。

(4) 次の手記を読んで、感じたことを書きましょう。

同性愛である自分に気がついたのは小学4年のころでした。幼いながらもこれは世間からホモと呼ばれてさげすまされていることだと分かったので、絶対にバレてはならないことだと肝に銘じていました。両親もテレビでの反応などから理解があるようには思えませんでしたし、こんな息子のことが知れたら親は悲しみ、見捨てられるだろうと思って一人心にしまっていました。長男だから女性と結婚して家を継ぎ子孫を残さねばならないという家族からのプレッシャーに、どうしたら本当の自分を殺して女性と付き合うことができるのだろう？と思い悩む日々でした。そのうちなおるのかな？女子と付き合えば変わるのかな？といろいろ試してみますが「自分にはどうしようもないことだ」ということだけが明確になるだけでした。社会からは変態とされ、恥ずかしい人間だとされています。どのように自分自身を肯定し前向きに自信をもって生きていって良いのかが分からない、そんな悶々とした10代でした。

日本でも、この愛媛にも、自分と同じ立場の人が結構たくさんいて、みんな一生懸命生きているのだと知ったとき、涙が止まりませんでした。海外にはゲイであることに誇りをもって生きている人たちだってたくさんいることを知りました。それでも自分を受け入れるのには時間がかかりましたが、仲間と出会っていくことで人生は開け、人生のパートナー（彼氏）とも巡り合うことができました。

社会の偏見は大きいままです。家族に理解してもらうことも簡単ではありません。でも変わっていくのではないかな？自分たちの世代が変えていけばいいのではないかな？と思っています。これを読んでいる皆さんにもその役割があるはずです。
(レインボープライド愛媛 エディ)

(5) 次の事例について思ったことを書きましょう。

性的マイノリティの芸能人をテレビなどで見て、異質なもの・珍しいもの・面白いものとして笑いものにしていることがあります。

しかし、私たちの周りには、自分の立場を言えず悩んだり苦しんだりしている人がいます。同性同士が仲良くしていると、ホモ・レズなどの言葉を使ってからかわれたり、笑いの種にされたりしています。

5 解説

(1) 性的マイノリティってなに？

性をめぐって社会的に差別されるおそれがあり、異性愛を一般的にしている社会から見て少数であるとみなされている人々の総称です。おおまかに4つのタイプがあるとされています。

- ・ 同性愛者 (性愛の対象が同性に向く人)
- ・ 両性愛者 (性愛の対象が両性に向く人)
- ・ 性同一性障がい (生物学的な性「体の性」と性の自己認識「こころの性」が一致しない状態)

＜性別に違和感を感じる人たち＞ 性同一性障がいまではいかないけれど、自分の性に違和感がある人も多くいます。

- ・ 無性愛者 (恋愛感情がない。異性、同性に関わらず、男女どちらにも性的な欲求を抱かない人)
- ・ 非性愛者 (恋愛感情があり得ても、性的な欲求は抱かない人)
- ・ 性分化疾患 (体の内外生殖器の形状等で、性別特徴が明確にできにくい人)

同性愛は病気ではありません。

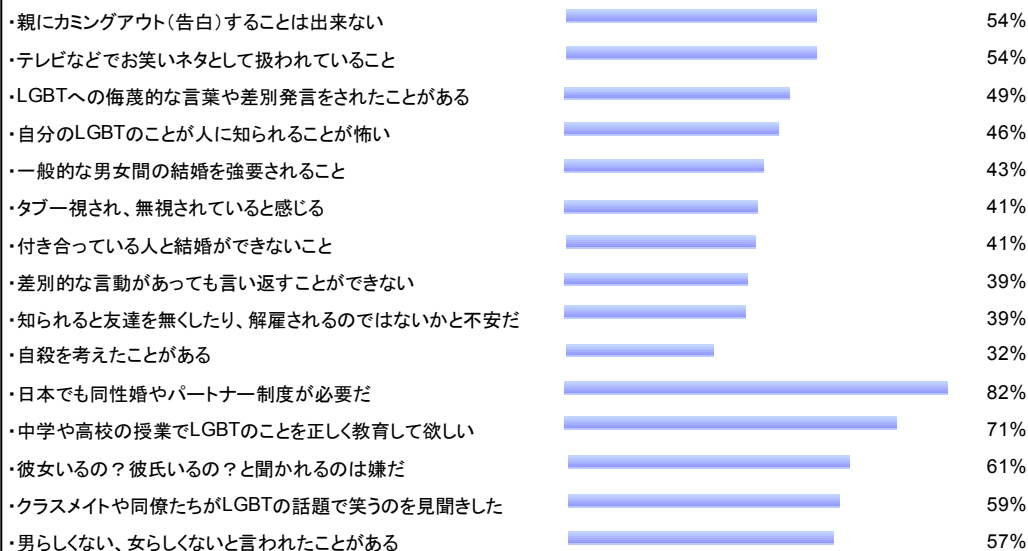
以前は、同性愛を治療対象としていましたが、WHO(世界保健機関)は、1993年に対象から削除し、1995年日本精神医学会も同一の見解を出しました。同性を好きになるということは全く正常な状態です。

人には性的指向があり、異性愛・同性愛・両性愛それぞれが存在します。そのうちの少数派の人々を性癖と捉え、性的指向と性癖(性的嗜好)を同一視することがありますが、決してそうではありません。

(2) 性的マイノリティの方は、どんな問題で悩み苦しんでいるの？

LGBT意識調査 (同性愛や性別の違和感がある人・性的マイノリティ)

LGBT当事者が抱える悩み、つらさ、心配を聞きました(複数回答あり)



レインボープライド愛媛調べ(2012年)

LGBTとは、L=レズビアン、G=ゲイ、B=バイセクシャル、T=トランスジェンダーの頭文字をとって作った頭字語です。

(3) 多くの人がカミングアウトできずにいる理由は？

- 異性愛者しかないという前提で社会での存在が無視されています。
- ・親にも自分の本当の気持ち・自分自身のことを伝えられない。
 - ・家族にさえ認められない。(恥ずかしい、みっともないとされる)
 - ・友達同士で恋愛話もできない。(うちとけにくい)
 - ・異性愛者一辺倒の社会の中で個人的な問題として放置されている。

(4) 私たちがしなければならないこと。

- まずは、正しい知識をもちましょう。
性的マイノリティの多様性を理解したうえで、相手の立場に立つことが大切です。
- 「自分とは違うもの」「自分が理解できないもの」をタブー視しないようにしましょう。
- 関心をもって問題に取り組みましょう。
特に性的な問題に対しては、「触れない、触れられない」方がいいと思い、この問題を知らなかった、考えてもいなかったとならないようにしましょう。

6 理解を深めるための取組・資料

(1) 地元企業の労務人事担当者の研修

2011年に今治の主要企業が集まる今治地方経営者協会が定期的に行う労働問題研究会で、性的少数者の労働問題が議題とされました。多くの当事者は偏見を恐れて必死に自分を隠して仕事をしていますが、実際に解雇されてしまった実例も伝えられ、隠された問題の深刻さに驚いていました。

参加者からは「職場の中で差別や偏見を放置してはならない」などの感想もよせられ、各企業において一人一人が生き生きと働ける職場環境を整えていきたいという情熱に触れることができました。

(2) レインボープライド愛媛の活動 (<http://rainbowpride-ehime.org>)

性的マイノリティ当事者や周囲の方に向けて様々活動を行っています。

市民向けの学習会

同性愛や性同一性障がい
の基礎知識的なところ
から話をします。

当事者同士の交流イベント

日頃の悩みや生き方など、
本当の自分を語る茶話会
を定期的に行っています。

無料メール相談

性的マイノリティ当事者
と家族のために無料のメ
ール相談を行っています。

啓発イベント・ブース出展

映画の上映会、県や市の
人権フェスティバルの参
加、パネルの展示を行っ
ています。

政治家の皆さんへのアンケートプロジェクト

愛媛県で活躍中の政治家に性的少数者も同じ県
民であることを伝えながら、性的マイノリティ
に関するアンケート調査を行っています。

(3) ホームページ等の学習資料

愛媛県教育委員会人権教育課の資料（幸せへの道）

「自分らしく生きるために」<http://ehime-c.esnet.ed.jp/jinken/97/toppage.htm>